

新日中友好21世紀委員会 (概要)

平成20年12月
外務省アジア大洋州局中国・モンゴル課

1. 目的

日中友好協力関係を21世紀において安定的に発展・強化させていくため、日中双方の有識者が政治、経済、文化、科学技術等広範な角度から検討し、両国政府に提言・報告を行う（事務局：外務省アジア大洋州局、事務局長：齋木アジア大洋州局長）。

2. 新日中友好21世紀委員会の歩み

- (1) 2003年5月にサンクトペテルブルグにおいて行われた小泉総理と胡錦濤国家主席との間の日中首脳会談において、新日中友好21世紀委員会の設置について合意された。
- (2) 2003年12月5日及び6日、日中双方から新委員を迎え、中国の大連において第一回会合を開催。
- (3) 2004年9月19日及び20日、第2回会合を東京において開催。エネルギー・環境問題及び国民間の相互理解につき議論された。会合後、共通利益の拡大及び相互信頼の重要性等につき認識を共有し、「共通認識」として提言を発表。
- (4) 2005年7月30日及び31日、第3回会合を雲南省昆明にて開催。日中関係の現状と両国関係改善・発展の促進、日中両国の国民感情とメディア、文化交流・経済貿易協力の拡充の方途について議論された。「日中両国の中長期的展望を考えるグループ」、「メディア文化交流に関する小グループ」の設立等が提案された。
- (5) 2006年3月23日及び24日、第4回会合を京都にて開催。「日中関係の進むべき方向、国内情勢の回顧」、「日中間のメディア・文化交流」、「日中関係の中長期的展望」について討議され、日本側より提言案「和解と協調のロードマップ」を提示。
- (6) 2004年の第2回会合で発表された「共通認識」における青少年交流強化の提言に基づき、2006年5月より日中高校生交流を柱とする「日中21世紀交流事業」が開始。
- (7) 2006年10月19日から21日にかけて、第5回会合を中国青島市にて開催。共同プレス発表を発出。
- (8) 「日中21世紀交流事業」が拡大され、2007年5月より東アジアサミット参加国を対象とした「21世紀東アジア青少年大交流計画」が開始。日中の高校生交流の規模を更に拡大。
- (9) 2007年6月9日及び10日、第6回会合を秋田県にて開催。戦略的互惠関係の構築について討議。
- (10) 2008年1月27日及び28日、第7回会合を北京にて実施。首脳交流を経た日中関係改善の現状を評価した上で、胡錦濤国家主席の訪日を有意義なものとし、「戦略的互惠関係」構築を進展させるかについて討議。
- (11) 2008年12月5日及び6日、第8回会合を軽井沢にて実施予定。

新日中友好21世紀委員会
(日中の新委員名簿)

- 日本側： 小林陽太郎氏（富士ゼロックス相談役最高顧問、座長）
園田矢氏（放送ジャーナリスト、東海大学教授）
五百旗頭真氏（防衛大学校校長、政治学）
松井孝典氏（東京大学教授、地球物理学）
石川好氏（作家、前秋田公立美術工芸短期大学学長）
伊藤元重氏（東京大学教授、経済学）
向井千秋氏（宇宙飛行士）
国分良成氏（慶應大学教授、政治学）
- 中国側： 鄭必堅氏（てい・ひつけん）
（元中央党校常務副校長、改革開放フォーラム理事長、座長）
閻学通氏（えん・がくつう）（清華大学国際問題研究所長）
張蘊嶺氏（ちょう・うんれい）（中国社会科学院国際研究学部主任）
陸忠偉氏（りく・ちゅうい）（前現代国際関係研究院院長）
蔣曉松氏（しょう・ぎょうしょう）（ボアオアジア・フォーラム副理事長）
孫東民氏（そん・とうみん）（人民日報高級編集員）
白岩松氏（はく・がんしょう）（中国中央テレビ著名キャスター）
宋 飛氏（そう ひ）（二胡演奏家、中国音楽学院教師）

(了)